

第2回調布市環境基本計画策定委員会結果

日 時	令和7年7月30日（水）14:00～16:00
場 所	教育会館2階201・202研修室
出席者	委員：10名（うちオンライン参加1名）
議 題	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布市環境基本計画策定委員会での協議事項について <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 次期環境基本計画の骨子（事務局案）について (2) 調布市地球温暖化対策実行計画の骨子（事務局案）について
事務局説明	<ul style="list-style-type: none"> ● 協議事項の整理：環境基本計画は環境分野のマスター・プランであり、地球温暖化対策実行計画は広範な分野に影響するため、本委員会でも温暖化計画の議論を併せて行う。 ● 環境基本計画（骨子案）：計画期間は令和8～17年度（10年間）、必要に応じ中間見直し。基本理念は現行を継承しつつ「将来世代」を明確化。将来像のキーワード案を5案例示。基本目標（案・5本柱）①水・緑・生物多様性、②身近な生活環境、③脱炭素、④資源循環、⑤環境学習・協働。重点プロジェクトの位置づけ、推進体制・進行管理（PDCA）を章立てて整理予定。 ● 地球温暖化対策実行計画（骨子案）：区域施策編と事務事業編を統合し、新計画として策定。適応策を強化し、地域気候変動適応計画に位置づけ。目標値（案）2030年度▲46%以上、2035年度▲64%以上、2050年実質ゼロ。次回、施策別削減量の試算と「脱炭素シナリオ」を提示予定。
委員意見	<p>■本委員会の所掌</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 本委員会で温暖化計画も併せて審議する方針を確認。 <p>■次期環境基本計画（骨子案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本理念・将来像・表現：将来像の文言整合（主語の一貫性）や読点の扱い等、読み手に伝わる記述へ修正要望。「きれいな空間」は騒音等も含む概念へ見直し検討、20世紀型の「環境管理」から「適正利用」等への表現変更の提案。 ● 体系・柱立て：景観を景観計画に委ねるだけでなく、崖線樹林地（国分寺崖線）の保全姿勢を環境基本計画でも明示すべき。事務局は施策内で具体化予定。基本目標4「資源が巡る、資源循環型のまち」は語の重複感あり、表現整理（例：「使い捨てに依存しない」等）を要望。既存廃棄物計画との整合も求めた。 ● 国際・国内動向の反映：第1章の「社会的動向」において、汚染（PFAS等）を独立項目として明確化すべきとの指摘。事務局は章構成の見直しを検討。 ● 見える化と参加拡大：市内の環境配慮情報（農産物、店舗の取組、回収拠点、印刷のグリーン認証等）の一元化・可視化を要望。広報紙・特設サイト等での整理が必要。事業者側は調布市との接点や脱炭素の道筋が見えにくい。行動メニューと報告・支援の枠組みの具体化を求める意見。 <p>■調布市地球温暖化実行計画（骨子案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 目標・手段：目標達成は「脱炭素シナリオ」「ロードマップ」に裏付けを、再エネ購入偏重とならぬよう自前・広域連携を含む多層的対策を要望。廃棄物部門は「リサイクル」だけでなく発生抑制（ごみそのものの削減）を軸に。一部事務組合との関係や計上方法の整理・説明の明確化を求める。 ● 適応策（暑熱・災害等）：適応策の重点の明示（暑熱、健康、防災・インフラ、生態系影響等）と、短期・中期の対策メニュー化を求める。